

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：34316

研究種目：挑戦的研究（開拓）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H05476・20K20410

研究課題名（和文）世界の人々のアイデンティティとしての「自省利他」の研究 - 社会実装を視野に入れて

研究課題名（英文）Research on "Introspective Altruism" as the identity of people in the world, with a view to its implementation.

研究代表者

中谷 英明 (Nakatani, Hideaki)

龍谷大学・公私立大学の部局等・研究員

研究者番号：20140395

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 19,600,000円

研究成果の概要（和文）：研究代表者中谷は、韻律統計、詩節配列法、内容等の指標により、パーリ聖典『八群品』Atthakavaggaを唯一の最古の仏典と仏教学史上初めて特定した。『八群品』中には、古註『ニッデーサ』の誤注釈によって見失われていた五位相二様態意識論が発見され、二千年ぶりに解読された。五位相論は利己的潜在意識を自覚し、払拭するニッバーナにおいて用いられる精密な意識分析表と判明した。ブッダはヤージュニャヴァルキヤ説と『百道梵書』を素材として自分の哲学を作ったことも発見された。恒常的自己刷新としてのニッバーナは現在の「利己的個人」に代わる「自省利他的個人」を世界の人々のアイデンティティとする可能性を示している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

古代インドの2大哲学者、ブッダとヤージュニャヴァルキヤの説が初めて正確に解読されたことは、仏教学、インド古典学の全分野の研究にとって大きな意味がある。ブッダの哲学が「恒常的自己刷新」をめざすニッバーナを核心とすることは、人類の新しい生き方の可能性を明らかにするものであり、大きな波紋を呼ぶものと考えられる。口承に依ったために年代不詳の典籍が多いインド古典文献学にとっては、韻律統計学が持つ大きな可能性が明らかになったことも重要である。

研究成果の概要（英文）：Principal investigator Nakatani has, for the first time in the history of Buddhist studies, identified the Pali canon 'Atthakavagga' as the oldest scripture based on prosodic statistics, verse arrangement methods, and content. Within the 'Atthakavagga,' the theory of Five-Phase Dual-Mode Consciousness, long obscured by misinterpretations in the ancient commentary 'Niddesa,' was rediscovered and deciphered after two millennia. This theory provides a precise analytic framework for consciousness, essential for realizing Nibbana by recognizing and eliminating selfish latent consciousness. It was also revealed that the Buddha developed his philosophy using Yajnavalkya's doctrine and the 'Shatapatha Brahmana' as foundational texts. The concept of Nirvana as perpetual self-renewal offers the potential to redefine global identities from 'self-interested individuals' to 'introspective and altruistic individuals.'

研究分野：インド仏教学

キーワード：Atthakavagga 自省 利他 パーリ仏典 ニッバーナ ヤージュニャヴァルキヤ 五位相二様態意識 潜在意識

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

研究代表者中谷は30年来、パーリ仏典『八群品』(Atthaka-vagga)が他のすべてのパーリ仏典とは異なる古い特徴を持つ事実を次々に発見し、『八群品』をブッダの言葉を最も忠実に伝える最古の唯一の仏典と特定した。ブッダの思想は「自省利他」と呼び得る。本科研はこの「自省利他」思想を究明し、その現代世界における有効性を見極めようとする試みである。

2. 研究の目的

解剖学的には、脳における人類と他の哺乳類の最大の相違は人類における前頭前野の発達であり、その機能は自己抑制、他者への思いやりであることが知られる。人間の本性としての「自省」と「利他」が十全に働いた時、人類社会とそれを構成する個人のあり方が最も安寧なものとなると推定し、2原理が十全に働く条件を人文・社会・自然の諸科学の視点から究明に努めた。

3. 研究の方法

本研究は、先ず『八群品』の相対年代を確定して、それに基づき内容の解明に当たる。『八群品』を最古の仏典の一つと見なす見解は19世紀末以来種々に提唱されてきたが、『八群品』を唯一最古の仏典と特定し、他の古層仏典との乖離を総括的に論じた論文は無かった。中谷は種々の指標をもとに、『八群品』の歴史的 position の確定に努めてきた。(関係諸論はホームページ <http://classics.jp/HN/> 参照。特に「ブッダの魂論」2003年、「ブッダの認識論、あるいはこころの可能性について」2014年、「ブッダが残した一詩篇『八群品』の研究」2024年 <https://toyobunko.repo.nii.ac.jp/records/2000363> 参照。)

(1) 年代確定において最も信頼のおける指標は韻律分析である。インド諸古典の韻律分析は19世紀半ば以来行われてきたが、手作業のため、統計処理は限定されていた。しかしピンガラ著の韻律書が強調する3音節ユニット(Trika)に着目した大規模統計分析は、3行詩 Gayatri から4行詩 Anuṣṭubh が千年の間に徐々に独立してきた経過を明かす。8音節から成る1行は起部と結部から成り、結部には $\cup\text{--}\cup\text{X}$ (短・長・短・短長任意) という終止リズムが現れる。3行詩に1行加えた4行詩 Anuṣṭubh でも当初は同様であったが、次第に4行詩は前半2行・後半2行の2部分から成ると意識され、その結果、奇数行の終止リズムが減少してゆく。この傾向が『リグ・ヴェーダ』(前1200年頃)最新層から始まり、パーリ新層(紀元前後)に至るまで、一貫して継続した。右表参照。

表 終止リズムの減少

【二步格行】

	起部	結部	
Gāyatrī	$\cup\text{--}\cup\text{--}$	$\cup\text{--}\cup\text{X}$	×3行
Anuṣṭubh	$\cup\text{--}\cup\text{--}$	$\cup\text{--}\cup\text{X}$	×4行

\cup : 短音節
 -- : 長音節
 $\cup\text{--}$: 長・短音節
 X : 長短任意音節

テキスト	($\cup\text{--}\cup\text{X}$) の%
RV Maṇḍala 1-9 (except 7)	70~93
RV Maṇḍala 10	36.5
Atharvaveda (Paippalāda)	28.8
Sn I 層: 八群品	20.7
Do.: 到彼岸品	15.4
Sn II 層 (パーリ中間層)	2.9
Sn III 層 (パーリ新層)	0.9

『八群品』は Atharvaveda に近く、他のパーリ經典とは遠い。千年間に編纂された、夫々数十、数百の詩節から成るテキスト群の統計数に見られる一貫した傾向は偶然ではあり得ない。

(2) 『八群品』の年代に関わる今一つの発見は、その名に関わる。『リグ・ヴェーダ』の讃歌配列法には八群法とマンダラ法の2種がある。八群法は総部数を8の倍数とし、各部が8章を含む。マンダラ法は各部の章の数少ない部から部を並べ、章、節、項の総数も8の倍数とする。『八群品』は総経数を8の倍数とし、第2経から5経までの詩数を8とする点において八群法に倣い、経内の詩数を増加順に並べる点においてマンダラ法に倣う。両方式の折衷方式を採っている。

これによって2点が判明した。1点は、『八群品』の最後の第16経に新語の hapax (孤語) が集中して現れるが、総経数は8の倍数でなければならず、後代付加ではないこと。従ってそこに

八群法

Aṣṭaka	Adhyāya	Varga	Mantra
1	8	265	1370
1	8	221	1147
1	8	225	1209
1	8	250	1289
1	8	238	1263
1	8	331	1730
1	8	248	1263
1	8	246	1281
8	64	2024	10552

マンダラ法

Maṇḍala	Anuvāka	Sūkta	Mantra
1 (1)	24	191	2006
1 (2)	4	43	429
1 (3)	5	62	617
1 (4)	5	58	589
1 (5)	6	87	727
1 (6)	6	78*	765
1 (7)	6	104	841
小計 6	32	432*	3968
1 (8)	10	103	1716
1 (9)	7	114	1108
1 (10)	12	191	1754
10	85	1028	10552

*78, *432に数える。注10 参照。

『八群品』

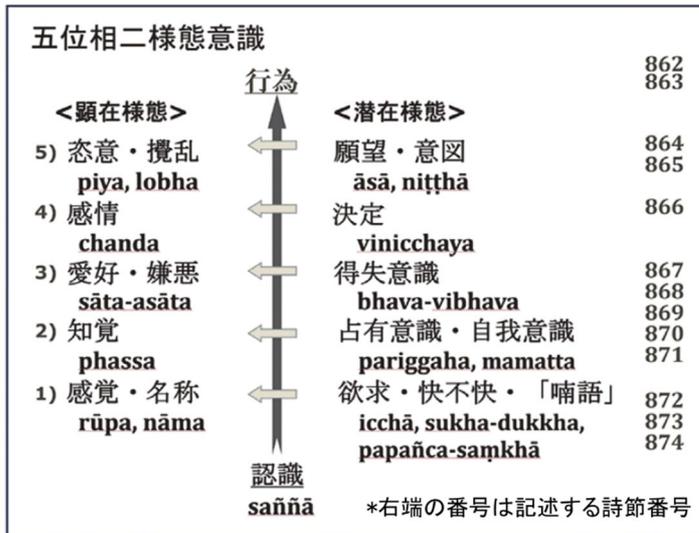
経	詩
1 (1)	6
1 (2)	8
1 (3)	8
1 (4)	8
1 (5)	8
1 (6)	10
1 (7)	10
1 (8)	11
1 (9)	12
1 (10)	14
1 (11)	16
1 (12)	17
1 (13)	20
1 (14)	20
1 (15)	20
1 (16)	21
16	210

あるブッダの呼称「兜率天から降下された御方」はブッダの神格化の開始を告げるが、この詩も当初からのものであること。他の 15 経の精密な内容からすれば、『八群品』編纂はブッダの言葉が弟子たちの脳裏に鮮明であった時期、ブッダ逝去後 1 世代以内と推定されることである。

もう 1 点は、『八群品』Atthaka-vagga の Atthaka を大衆部のみが「八群法」と正しく解するが、他の部派は「義」と誤解しており、「八群法」は仏教教団においては根本分裂直後に忘失されたように見えることである。

4. 研究成果

(1)五位相論： 制作年代に関する発見以外に、今一つ重要な発見があった。それは古註『ニッデーサ』(前 1 世紀頃)の誤注によって『八群品』中に眠っていた意識分析表「五位相二様態意識論」が二千年来初めて解読されたことである。



「これから言及するそれ」を「先に言及したそれ」と取り違える誤読が理解を妨げていた。実はそれは発生から行為企画に至る意識の流れを 5 位相に分け、各位相の意識に顕在(自覚的)と潜在(無自覚的)の 2 様態を区別して、潜在意識が顕在意識を統御する機序を示す意識分析表と判明した。

(2) 意識の潜在様態： 五位相論は成人の認識機序記述であると同時に、乳児の意識成長記述ともな

っている。それはこの意識分析が、『百道梵書』(10.5.3)による『リグ・ヴェーダ』10.129 の宇宙開闢讃歌に対する注釈を素材とすると推定されることによっても明かされる(下表参照。詳細は 2024 年拙論 32 頁以降参照)。すなわち宇宙開闢讃歌は宇宙創造を「思い」manas の誕生に擬して語っており、五位相論の第一位相が乳児段階を示すことと符合する。

『百道梵書』(下線付き)と五位相論第一位相の対応



『百道梵書』は宇宙創造時に先ず現れた「思い」manasが「欲望」kamaと「言葉」vacを生むと言う。他方、五位相の第一位相は、「思い」が欲望の対象としての「感覚」と、感覚に付加される「名称」を生む一方、感覚は自覚されない「欲求」に、名称は自覚されない「喃語」に支配されていると言う。これが成人の認識の出発点でもあり、同時に乳児の意識状態でもある。

五位相論によれば、原初の潜在状態の「欲求」は「喃語」状態の言葉を伴いつつ、やがて「自我」と「占有」意識を持ち、さらに自分にとっての「得失」を意識し、「得失」の総体を勘案して「決定」し、それに基づき「意図」を持つ。言葉の働きを伴いつつこうして形成された隠れた「意図」に基づき、最後に「恣意」と呼ばれる行為企画が意識に上る。

このように五位相論は、乳児以来の欲求と言語が次第に複雑な潜在意識を構成する機序を明かし、その諸潜在意識を意識に上せて、利己的欲求の払拭(ニッバーナ)に努めよと言う。その意識分析は脳科学者を驚嘆させるほど精密である。

(3)ニッバーナ： 五位相論の意識分析表を用いてなされるニッバーナは、「利己心払拭を完成した」と自足することなく、払拭をめざして継続される。深い意識分析を行いつつ実践するこの常時の自己刷新、ニッバーナこそブッダ哲学の核心である。

このニッバーナの立場は不変で固定的で絶対的なもの一切を認めない。「真理は存在しない。存在するのは個々人の時々の認識のみ。」(Sn 886)という立場である。これは、例えば後代仏典の「四聖諦」(4つの聖なる真理)などの表現はあり得ない立場である。

(4) ヤージュニャヴァルキヤの哲学と『八群品』

ブッダのニッバーナ説が明らかになった時、ウパニシャッドの大祭官ヤージュニャヴァルキヤの説との符合が鮮明になった。ヤージュニャヴァルキヤは、1)子息、財産、天界再生を放棄して出家乞食行を行う人が至福を得ると言う。この説は子息、財産という「欲望の対象」と、天界再生信仰という「見解」とを捨てて「出家遊行」する点においてブッダ説と符合する。2)隠れた認識主体(アートマン)による認識支配の自覚が至福であると言う。ブッダが潜在欲求が顕在意識を支配する機序を自覚し、潜在欲求払拭に努めよ、それが安寧であると言うのはこの祭官説を精密化したものである。3)アートマン(主体)とブラフマン(客体)を、ともに非実体的で、常に動き、「これに非ず、あれにも非ず」としか言えないとする。それらはブッダの言う「認識作用」そのものである。ただしブッダは主体・客体の二元を抹消し、不断に流動する認識作用の存在のみを認めた。ここにブッダ哲学の飛躍がある。

『百道梵書』はヤージュニャヴァルキヤが編纂したと伝えられ、ブッダが活躍したコーサラ・ヴィデーハ地域にはブッダ在世の直前にヤージュニャヴァルキヤのヴァーージャサネーイン派が進出していた。ブッダはこれらの説をおそらく知悉しており、それを素材としつつ、格段に深めて自説を打ち立てたと考えられる。

(5) 諸分野からのブッダ哲学の検討

以上、明らかになったブッダの哲学は、五位相論の意識分析によって潜在利己心の常在を自覚し、その払拭に努め続ける「自己刷新の継続」を原理とし、それによって利他の心を養うという結果をもたらすものと考えられるが、現代の世界に有効な思索を提供するであろうか。研究分担者の種々の領域からこれを検討した。

「動物行動学」山本真也： 1)生存に有利な利他行動としては、血縁者間の利他行動と互恵的利他主義理論が考えられる。後者においては過去のやり取りを記憶する高度な認知能力が必要であることが判っている。2)第三者を介する間接互恵性の成立には、その社会での他者の評価が共有される必要があり、言語が必要であるとされる。3)従ってヒト以外の動物では非血縁個体間の利他行動は一般的ではない。4)ヒトの利他行動は評判を介した間接互恵社会において自発的利他が起こりやすい。5)ヒト以外の動物と異なり、ヒトは他者の喜びを自分のそれと感じる共感メカニズムが備わっている。社会が変化するにつれてどのような利他行動があり得るか、人の行動を進化的に理解することはヒト社会の今後を考えるうえで重要である。

「精神医学」村井俊哉： 1)人間の利他的側面の存在は、二つの研究によって明らかにされた。前頭前皮質の損傷によって行動が利他的から利己的に変わる。利他的行動の際の脳

内報酬系の活動の上昇。これは利他行動が利己的目標を実現する手段に過ぎないとする見解に対する反論である。2) 利他に認められる種類： 幼児に見られる広範な利他的行動。これは成長につれて曇らされてゆくようにも見える、生まれながらの利他性。「私」に気付いた人間は「私」以外の他者にも「視点」があることに気づき、他者を慈しむようになる、3-4歳で芽生える認知的共感。3) ブッダの「自省利他」は先の2例のように既に備わっているものではなく、人生における究極的到達目標であろう。

「日本仏教」末木文美士： 最澄は大乗戒（梵網戒）の採用を強く主張し、没後、比叡山延暦寺に大乗戒壇が設立された。最澄は大乗戒の特徴として「真俗一貫」ということを挙げ、菩薩の理想が出家者とともに在家者にも通用し、出家者と在家者が協力して理想の国家社会と作っていくべきことを説いた。その理想通りではないが、中世の日本では、王法と仏法が並立協力する国家体制が実現した。最澄が目指した「真俗一貫」は出家、在家に一貫する自省利他を具現したものとも言えよう。菩薩思想は一見すると現実離れをした思想のように見えるが、このような形で日本では現実化していたのである。

「『砂漠の師父の言葉』における自省利他」久松英二： 『砂漠の師父の言葉』は、4～5世紀にエジプトの砂漠地帯で活躍したキリスト教修道指導者たちの言行録である。隠遁と静寂の中で彼らが追い求めたものは、「自省」と「利他」であった。自省は自己の罪業の深さの嘆きである。それが深まった修行者は他者への無限の開放が「愛」として発現し、他者をキリスト教的感性へと導く。ニッバーナ（利己心払拭）として実行されるブッダの自省もやがて利他の心を育む。ここまでは師父たちとブッダの思想は並行する。師父たちの究極目的は「観想」（神を観る神秘体験）である。「観想」の実現条件として自身の罪業に対する深い嘆きがあるとすれば、ニッバーナとの距離は近いが、ニッバーナは神のような絶対者を否認する。ここにニッバーナの特徴がある。

「現代社会における自省利他」佐伯啓思： 利他的な精神は近代的な合理主義を取り去ったところに、日本人の伝統的な「生き方」として保持されているようにも思われる。たとえば、宮沢賢治の生き様に共鳴する人は多い。この生き方がたいへん難しいとしても、多くの人が惹かれる。ここには仏教的境地を背後においた「自省利他」が息づいている。

「自省利他のあり得る場所」池内憲： 自省利他があり得る場所を見せる。それができれば思想的に意味のある提案、介入になる。自省利他を言っている意味があると世界の様々な主体が受け止める状況を探し出したり、作り出したりすることが今の一番の課題と考える。

(6) 現代世界におけるブッダの哲学

主流派経済学では Self-interested individual を社会の最小単位と考えられると言われる。しかし個人の欲求を先ず認め、不都合が生じた際に法制で規制し、相互主義的妥協策を模索するのでは紛争・戦争を絶やせないのではないか。ブッダはその点を見抜き、人の感性、人格そのものを環世界に親和的なものにするニッバーナ、すなわち意識分析表を用いる潜在利己心の自覚と払拭の継続を説いたと考えられる。

一切の固定的な見解、信仰、絶対者を認めず、ひたすら五位相論による利己的欲求の自覚・払拭に努め、こうして不断に自己刷新を継続するニッバーナ原理によって生きるブッダの哲学は、広い視野から世界を俯瞰して行くべき道を選び取る洞察力を備え、謙遜、慎重でありながら開放的で創造的な人格を作るのではなからうか。今後もこの研究を深めることに努めたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計97件（うち査読付論文 29件 / うち国際共著 26件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 中谷英明	4. 巻 1
2. 論文標題 ブッダが残した一詩篇『八群品』の研究	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東洋文庫リポジトリ	6. 最初と最後の頁 1-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 末木文美士・奥山直司・小田龍哉	4. 巻 1
2. 論文標題 高山寺所蔵・土宜法龍『米欧日記』解題ならびに翻刻（1）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 令和四年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集	6. 最初と最後の頁 2-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷英明	4. 巻 1
2. 論文標題 ブッダが残した一詩篇『八群品』の研究	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東洋文庫リポジトリERNEST	6. 最初と最後の頁 1-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高 満也	4. 巻 1
2. 論文標題 真宗学の現在地とその方法論をめぐって	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 龍谷大学真宗学会編『龍谷大学真宗学100年史』	6. 最初と最後の頁 277-291
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末木文美士	4. 巻 1
2. 論文標題 院政・鎌倉期の禅と密教	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 智山勸学会編『鎌倉仏教—密教の視点から』	6. 最初と最後の頁 217-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi ICHIKAWA	4. 巻 58
2. 論文標題 Jewish Coexistence: Past, Present and Future," Special Issue: Coexistence in the World of Abrahamic Monotheism: With Special Attention to Islam	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 7-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi ICHIKAWA	4. 巻 32
2. 論文標題 Toward the 'Second Axial Age'; The Spiritual Revolution of Humanity and Self-transformation	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Journal of Oriental Studies	6. 最初と最後の頁 147-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 125-7
2. 論文標題 Sigmund Freud 想起することとその崇高性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 623-633
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 44-2
2. 論文標題 神話を生きるエクリチュールの主体 「影法師アイデンティティ」の誕生と変容	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 臨床精神病理	6. 最初と最後の頁 111-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 21
2. 論文標題 故郷の卑弥呼の森の虹	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 始更	6. 最初と最後の頁 68-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 44-2
2. 論文標題 ジークムント・フロイト 死と罪をめぐる新しい思索へ . (シリーズ: 20世紀の精神医学)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 精神医学史研究	6. 最初と最後の頁 102-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 126-1
2. 論文標題 時間の区切れのなかに精神療法的関係性の本質を潜ませる	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東貴之	4. 巻 1
2. 論文標題 礼教的透、泛化及其;展 以中国為中心的近世東亜為例	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 毛立平, 張小綱, 牛貴烈主編『風尚, 社会与風雅 十八世紀東西方的共時性』	6. 最初と最後の頁 25-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 伊東貴之	4. 巻 1
2. 論文標題 中国における文と武 侠と武人、門閥貴族、士大夫・郷紳と文人	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 倉本一宏編『貴族とは何か、武士とは何か』	6. 最初と最後の頁 577-591
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lee Sok Hwan, Yamamoto Shinya	4. 巻 68
2. 論文標題 The evolution of prestige: Perspectives and hypotheses from comparative studies	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 New Ideas in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 山本真也	4. 巻 1
2. 論文標題 「ヒトとは何か」を探る動物研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 最前線に立つ研究者15人の白熱! 講義 生きものは不思議. 河出書房新社	6. 最初と最後の頁 268-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本真也、クリスティン・リン	4. 巻 93-8
2. 論文標題 霊長類の共感性と社会的情動	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 692-696
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久松英二	4. 巻 1
2. 論文標題 サイクルと「イエスの祈り」 スーフィズムとヘシュカズムとの比較	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 キリスト教とイスラーム・対立から共生へ 神秘思想にみる聖人・悪魔観 (晃洋書房)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久松英二	4. 巻 1
2. 論文標題 キリスト教の悪魔観 その起源と展開	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 キリスト教とイスラーム・対立から共生へ 神秘思想にみる聖人・悪魔観 (晃洋書房)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久松英二	4. 巻 1
2. 論文標題 イエスの祈りと念仏 東方正教と中国浄土教における展開の比較	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『仏教・イスラーム・キリスト教 祈りと思想の共鳴』 (法蔵館)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kosuke Shimizu	4. 巻 20 (1)
2. 論文標題 Buddhism, quantum theory and international relations: On the strength of the subject, the discontinuous relationality, and the world of contingency	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of International Political Theory	6. 最初と最後の頁 91-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kosuke Shimizu	4. 巻 1
2. 論文標題 Buddhism and Global IR	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 E- International Relations	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末木文美士・奥山直司・小田龍哉	4. 巻 1
2. 論文標題 高山寺所蔵・土宜法龍『米欧日記』解題ならびに翻刻 (1)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 令和四年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集	6. 最初と最後の頁 2-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 21
2. 論文標題 鏡の向こうの卑弥呼たち	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 始更	6. 最初と最後の頁 91-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 103
2. 論文標題 睡眠中の思考活動としての夢とその創造作用の特質 - 梶井基次郎の作品読解をふまえて -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本病跡学雑誌	6. 最初と最後の頁 21-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 28-2
2. 論文標題 ジークムント・フロイト - 精神病理と記憶 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 最新精神医学	6. 最初と最後の頁 121-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川裕	4. 巻 61-2
2. 論文標題 「第2の枢軸時代」に向けて 人類の精神革命と自己変革	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋学術研究	6. 最初と最後の頁 76-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久松英二	4. 巻 76-6
2. 論文標題 東方霊性における身体 ヘシュカズムの心身技法とヨーガ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福音宣教	6. 最初と最後の頁 19-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東貴之	4. 巻 1
2. 論文標題 明清思想與禮教 明清交替與東亜的思想世界	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文化詮釋與諸種傳統之交渉	6. 最初と最後の頁 51-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東貴之	4. 巻 1
2. 論文標題 経世学の展開と考証学の隆盛 明末清初期から清代の学術と思想	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア人物史・第7巻 近世の帝国の繁栄とヨーロッパ [16~18世紀]	6. 最初と最後の頁 600-669
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野塚知二	4. 巻 14-1
2. 論文標題 歴史研究からみる労働と生活の規範形成	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会政策』第14巻第1号	6. 最初と最後の頁 5-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野塚知二	4. 巻 214
2. 論文標題 関口尚志先生の学問	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経友	6. 最初と最後の頁 26-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野塚知二・藤原辰史	4. 巻 101
2. 論文標題 食料の平和	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神奈川大学評論	6. 最初と最後の頁 5-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Seiji Kumagai	4. 巻 103
2. 論文標題 How the Concepts of Buddha Nature and Original Enlightenment Were Interpreted by Shinran.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Buddha Nature Across Asia (WSTB) Vienna: University of Vienna	6. 最初と最後の頁 123-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kosuke Shimizu	4. 巻 2-5
2. 論文標題 Non-Western Attempt at Hegemony: Lessons from the Second-Generation Kyoto School for International Pluralism and Its Discontents	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Global Studies Quarterly	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野塚知二	4. 巻 1
2. 論文標題 「人の資本主義」の意味と可能性についての覚え書き	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中島隆博編 『人の資本主義』 東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 3-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazushige Shingu	4. 巻 1
2. 論文標題 Japanese inter-signifier subjects: Jouissance in the locus of the character	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sheldon George and Derek Hook (eds): Lacan and Race. Routledge, Oxon/New York	6. 最初と最後の頁 223-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 42 (2)
2. 論文標題 精神分析の治療原理の探究と臨床精神療法構築	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床精神病理	6. 最初と最後の頁 173-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 19
2. 論文標題 鏡の国の常世 - 古代倭(やまと)の鏡像段階	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 始更	6. 最初と最後の頁 93-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Brooks James, Yamamoto Shinya	4. 巻 11
2. 論文標題 Dog Stick Chewing: An Overlooked Instance of Tool Use?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2020.577100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Brooks James、Yamamoto Shinya	4. 巻 12
2. 論文標題 Response: Commentary: Dog Stick Chewing: An Overlooked Instance of Tool Use?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2021.757526	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Brooks James、Kano Fumihiro、Sato Yutaro、Yeow Hanling、Morimura Naruki、Nagasawa Miho、Kikusui Takefumi、Yamamoto Shinya	4. 巻 125
2. 論文標題 Divergent effects of oxytocin on eye contact in bonobos and chimpanzees	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychoneuroendocrinology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psyneuen.2020.105119	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ringhofer Monamie、Tr?sch Mil?na、Lansade L?a、Yamamoto Shinya	4. 巻 11
2. 論文標題 Horses with sustained attention follow the pointing of a human who knows where food is hidden	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-95727-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Maeda Tamao、Sueur C?dric、Hirata Satoshi、Yamamoto Shinya	4. 巻 16
2. 論文標題 Behavioural synchronization in a multilevel society of feral horses	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0258944	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 YAMAMOTO Shinya	4. 巻 63
2. 論文標題 “ UNWILLING ” VERSUS “ UNABLE ” : UNDERSTANDING CHIMPANZEES ’ RESTRICTIONS IN COGNITION AND MOTIVATION	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PSYCHOLOGIA	6. 最初と最後の頁 174 ~ 190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2117/psychoc.2021-B020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 山本真也	4. 巻 40(3)
2. 論文標題 共同注意の系統発生	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Clinical Neuroscience	6. 最初と最後の頁 354-356
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Brooks James、Yamamoto Shinya	4. 巻 11
2. 論文標題 The founder sociality hypothesis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Ecology and Evolution	6. 最初と最後の頁 14392 ~ 14404
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ece3.8143	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 伊東貴之	4. 巻 1
2. 論文標題 伝統中国の国家・社会論のための一考察 「伝統中国をどう捉えるか？」補遺	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 伊東貴之 編『東アジアの王権と秩序 思想・宗教・儀礼を中心として』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東貴之	4. 巻 43
2. 論文標題 「禮教」の滲透・汎化とその展開 中國を中心とする近世東アジアの事例から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国思想史研究	6. 最初と最後の頁 103～145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 舟橋健太	4. 巻 1
2. 論文標題 被差別／非差別の主張とカースト制度 「不可触民」であること、インド人であること	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『差別の構造と国民国家 宗教と公共性』	6. 最初と最後の頁 107-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中谷英明	4. 巻 20
2. 論文標題 自省利他の思想『スッタニパータ』八頌品における釈尊の教え	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 駒澤大学祈祷文化講演集	6. 最初と最後の頁 85-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷英明	4. 巻 43
2. 論文標題 インド・チベット古典学と日仏東洋学会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日仏東洋学会『通信』	6. 最初と最後の頁 29-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 入澤崇	4. 巻 -
2. 論文標題 大谷光瑞師のめざしたこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大谷光瑞の構想と居住空間	6. 最初と最後の頁 3-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久松英二	4. 巻 18
2. 論文標題 ギリシア正教神秘思想とイスラーム神秘思想 諸宗教間の対話を目指して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 インターカルチュラル	6. 最初と最後の頁 44~47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久松英二	4. 巻 22
2. 論文標題 シュカズムとスーフイズム 祈りの技法の比較研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際社会文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 29-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimizu Kosuke, Noro Sei	4. 巻 -
2. 論文標題 Political healing and Mahayana Buddhist medicine: a critical engagement with contemporary international relations	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Third World Quarterly	6. 最初と最後の頁 1~16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/01436597.2021.1891878	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimizu Kosuke, Noro Sei	4. 巻 -
2. 論文標題 An East Asian approach to temporality, subjectivity and ethics: bringing Mah'y?na Buddhist ontological ethics of Nikon into international relations	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cambridge Review of International Affairs	6. 最初と最後の頁 1~19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09557571.2020.1859463	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Trownsell Tamara A, Tickner Arlene B, Querejazu Amaya, Reddekop Jarrad, Shani Giorgio, Shimizu Kosuke, Behera Navnita Chadha, Arian Anahita	4. 巻 22
2. 論文標題 Differing about Difference: Relational IR from around the World	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Studies Perspectives	6. 最初と最後の頁 25~64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/isp/ekaa008	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Scauso Marcos S., FitzGerald Garrett, Tickner Arlene B., Behera Navnita Chadha, Pan Chengxin, Shih Chih-yu, Shimizu Kosuke	4. 巻 7
2. 論文標題 COVID-19, Democracies, and (De)Colonialities	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Democratic Theory	6. 最初と最後の頁 82~93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3167/dt.2020.070211	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Maeda Tamao, Ochi Sakiho, Ringhofer Monamie, Sosa Sebastian, Sueur C?dric, Hirata Satoshi, Yamamoto Shinya	4. 巻 11
2. 論文標題 Aerial drone observations identified a multilevel society in feral horses	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1-12.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-79790-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Brooks James、Onishi Ena、Clark Isabelle R.、Bohn Manuel、Yamamoto Shinya	4. 巻 16
2. 論文標題 Uniting against a common enemy: Perceived outgroup threat elicits ingroup cohesion in chimpanzees	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 23-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0246869	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 伊東貴之	4. 巻 25
2. 論文標題 「礼教」的浸透、泛化及其展升 以中国为中心的近世东亚的事例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 常建華主編『中国社会歴史評論』(Chinese Social History Review)	6. 最初と最後の頁 215~225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野塚知二	4. 巻 934
2. 論文標題 人類は原料革命から卒業できるのか? 温暖化問題あるいは産業革命観への一視角	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界(岩波書店)	6. 最初と最後の頁 108-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 38(1)
2. 論文標題 精神分析の適応・効果とその限界 冷静に歴史を見渡してみれば	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 12
2. 論文標題 カウンセリングにおける自然と人間の相互同一化過程の描写としての宮沢賢治作品『セロ弾きのゴーシュ』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 奈良大学臨床心理クリニック紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 26(2)
2. 論文標題 不安の精神病理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 最新精神医学	6. 最初と最後の頁 117-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 18
2. 論文標題 海と山のあいだの文字 日本文学とラカンのリトラル	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 始更	6. 最初と最後の頁 67-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中谷英明	4. 巻 43
2. 論文標題 インド・チベット古典学と日仏東洋学会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日仏東洋学会通信	6. 最初と最後の頁 29-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 中谷英明	4. 巻 20
2. 論文標題 自省利他の思想『スッタニパータ』八頌品における釈尊の教え	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 駒澤大学祈祷文化講演集	6. 最初と最後の頁 85-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野塚知二	4. 巻 1
2. 論文標題 「人の資本主義」の意味と可能性についての覚え書き	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中島隆博編『人の資本主義』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 3-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazushige Shingu	4. 巻 1
2. 論文標題 Japanese inter-signifier subjects: Jouissance in the locus of the character	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sheldon George and Derek Hook (eds): Lacan and Race. Routledge, Oxon/New York	6. 最初と最後の頁 223-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 42 (2)
2. 論文標題 精神分析の治療原理の探究と臨床精神療法構築	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床精神病理	6. 最初と最後の頁 173-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 19
2. 論文標題 鏡の国の常世 - 古代倭(やまと)の鏡像段階	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 始更	6. 最初と最後の頁 93-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 38(1)
2. 論文標題 精神分析の適応・効果とその限界ー冷静に歴史を見渡してみれば	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 新宮一成	4. 巻 26(2)
2. 論文標題 不安の精神病理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 最新精神医学	6. 最初と最後の頁 117-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 入澤崇	4. 巻 1
2. 論文標題 大谷光瑞師のめざしたこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大谷光瑞の構想と居住空間	6. 最初と最後の頁 3-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池内 恵	4. 巻 7
2. 論文標題 イスラエル・中国関係の発展と対米関係の緊張	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中東レビュー	6. 最初と最後の頁 29～33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/mercv.Vol.7_Rep07	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maeda Tamao, Ochi Sakiho, Ringhofer Monamie, Sosa Sebastian, Sueur C?dric, Hirata Satoshi, Yamamoto Shinya	4. 巻 11
2. 論文標題 Aerial drone observations identified a multilevel society in feral horses	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 71-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-79790-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ringhofer Monamie, Go Clark Kendrick, Inoue Sota, S. Mendon?a Renata, Hirata Satoshi, Kubo Takatomi, Ikeda Kazushi, Yamamoto Shinya	4. 巻 38
2. 論文標題 Herding mechanisms to maintain the cohesion of a harem group: two interaction phases during herding	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Ethology	6. 最初と最後の頁 71～77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10164-019-00622-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Brooks James, Yamamoto Shinya	4. 巻 11
2. 論文標題 Dog Stick Chewing: An Overlooked Instance of Tool Use?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2020.577100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Brooks James、Yamamoto Shinya	4. 巻 12
2. 論文標題 Response: Commentary: Dog Stick Chewing: An Overlooked Instance of Tool Use?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2021.757526	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Brooks James、Kano Fumihiro、Sato Yutaro、Yeow Hanling、Morimura Naruki、Nagasawa Miho、Kikusui Takefumi、Yamamoto Shinya	4. 巻 125
2. 論文標題 Divergent effects of oxytocin on eye contact in bonobos and chimpanzees	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychoneuroendocrinology	6. 最初と最後の頁 105119 ~ 105119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psyneuen.2020.105119	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Brooks James、Onishi Ena、Clark Isabelle R.、Bohn Manuel、Yamamoto Shinya	4. 巻 16
2. 論文標題 Uniting against a common enemy: Perceived outgroup threat elicits ingroup cohesion in chimpanzees	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0246869	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ringhofer Monamie、Tr?sch Mil?na、Lansade L?a、Yamamoto Shinya	4. 巻 11
2. 論文標題 Horses with sustained attention follow the pointing of a human who knows where food is hidden	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-95727-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Maeda Tamao, Sueur C?dric, Hirata Satoshi, Yamamoto Shinya	4. 巻 16
2. 論文標題 Behavioural synchronization in a multilevel society of feral horses	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0258944	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 YAMAMOTO Shinya	4. 巻 63
2. 論文標題 “ UNWILLING ” VERSUS “ UNABLE ” : UNDERSTANDING CHIMPANZEES ’ RESTRICTIONS IN COGNITION AND MOTIVATION	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PSYCHOLOGIA	6. 最初と最後の頁 174 ~ 190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2117/psychoc.2021-B020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 山本真也	4. 巻 40(3)
2. 論文標題 共同注意の系統発生	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Clinical Neuroscience	6. 最初と最後の頁 354-356
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Brooks James, Yamamoto Shinya	4. 巻 11
2. 論文標題 The founder sociality hypothesis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Ecology and Evolution	6. 最初と最後の頁 14392 ~ 14404
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ece3.8143	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Sota, Yamamoto Shinya, Ringhofer Monamie, Mendonça Renata S., Hirata Satoshi	4. 巻 126
2. 論文標題 Lateral position preference in grazing feral horses	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ethology	6. 最初と最後の頁 111 ~ 119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/eth.12966	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Go Clark Kendrick, Ringhofer Monamie, Lao Bryan, Kubo Takatomi, Yamamoto Shinya, Ikeda Kazushi	4. 巻 38
2. 論文標題 A mathematical model of herding in horse-harem group	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Ethology	6. 最初と最後の頁 343 ~ 353
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10164-020-00656-0	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimizu Kosuke, Noro Sei	4. 巻 5
2. 論文標題 Political healing and Mahāyāna Buddhist medicine: a critical engagement with contemporary international relations	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Third World Quarterly	6. 最初と最後の頁 1 ~ 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/01436597.2021.1891878	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Trowsell Tamara A, Tickner Arlene B, Querejazu Amaya, Reddekop Jarrad, Shani Giorgio, Shimizu Kosuke, Behera Navnita Chadha, Arian Anahita	4. 巻 22
2. 論文標題 Differing about Difference: Relational IR from around the World	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Studies Perspectives	6. 最初と最後の頁 25 ~ 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/isp/ekaa008	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimizu Kosuke, Noro Sei	4. 巻 4
2. 論文標題 An East Asian approach to temporality, subjectivity and ethics: bringing Mahāyāna Buddhist ontological ethics of <i>Nikon</i> into international relations	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cambridge Review of International Affairs	6. 最初と最後の頁 1~19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09557571.2020.1859463	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Scauso Marcos S., FitzGerald Garrett, Tickner Arlene B., Behera Navnita Chadha, Pan Chengxin, Shih Chih-yu, Shimizu Kosuke	4. 巻 7
2. 論文標題 COVID-19, Democracies, and (De)Colonialities	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Democratic Theory	6. 最初と最後の頁 82~93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3167/dt.2020.070211	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東貴之	4. 巻 1
2. 論文標題 伝統中国の国家・社会論のための一考察 「伝統中国をどう捉えるか？」補遺	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 伊東貴之 編『東アジアの王権と秩序 思想・宗教・儀礼を中心として』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊東貴之	4. 巻 43
2. 論文標題 「禮教」の滲透・汎化とその展開 中国を中心とする近世東アジアの事例から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国思想史研究	6. 最初と最後の頁 103~145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 舟橋健太	4. 巻 1
2. 論文標題 被差別 / 非差別の主張とカースト制度 「不可触民」であること、インド人であること	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 差別の構造と国民国家 宗教と公共性	6. 最初と最後の頁 107-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計61件 (うち招待講演 24件 / うち国際学会 22件)

1. 発表者名 中谷英明
2. 発表標題 ブッダの意識生成分析とその哲学
3. 学会等名 日仏東洋学会・日仏会館講演会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Mitsuya Dake
2. 発表標題 The Impact of Southern Song (Hangzhou) Buddhism on Japanese Pure Land Transformational Movements in the 12th and 13th Centuries
3. 学会等名 East Asian Buddhist Interactions: Focus on Greater Hangzhou Region Connections with Japan during the Song/Kamakura-Muromachi Periods (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 FUNAHASHI Kenta
2. 発表標題 A Saint as the Connecting Figure: Beliefs and Practices of Ravidas in Uttar Pradesh
3. 学会等名 International Seminar on the "Life, Time and Philosophy of Satguru Ravidass Ji (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊藤貴之
2. 発表標題 聶菲「治世宝典『群書治要』的中日交流史」をめぐって
3. 学会等名 武蔵大学東西文化融合史研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 村井俊哉
2. 発表標題 ブッタの考えた「意識」について：現代の精神医学・脳科学の立ち位置から
3. 学会等名 日仏東洋学会・日仏会館講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 久松英二
2. 発表標題 ギリシア教父における神化思想
3. 学会等名 日本ビザンツ学会大会第21回大会（岡山大学）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Kosuke Shimizu
2. 発表標題 On war and the idea of nothingness: the possibilities and dangers of the philosophy of contingencies
3. 学会等名 International Studies Association Asia-Pacific (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kosuke Shimizu
2. 発表標題 War and Nothingness: The Possibilities of Buddhism
3. 学会等名 East-West Forum, National Chung Hsing University (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中谷英明
2. 発表標題 脳科学と五位相説 言語能力と自省利他について
3. 学会等名 「自省利他」科研令和4年度第2回全体会議
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中谷英明
2. 発表標題 自省利他の課題
3. 学会等名 「自省利他」科研令和4年度第1回全体会議
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中谷英明
2. 発表標題 『八群品』の概要
3. 学会等名 「自省利他」科研令和4年度第1回全体会議
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 末木文美士
2. 発表標題 吉永進一の近代仏教研究
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊東貴之
2. 発表標題 中國新儒教思想史上的共同性與他者
3. 学会等名 清代政治視野下的經學研究」學術研討會，台湾・國立中央研究院中國文哲研究所（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊東貴之
2. 発表標題 当代日本比較哲学・思想研究与中国学（現代日本における比較哲学・思想研究と中国学）
3. 学会等名 系列講座・朝向世界的日本哲学，中山大学哲学系・中山大学東西哲学与文明互鑑研究中心（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 見果てぬ夢としてのアソシエーション：協同性、労指関係、瞬時の意思疎通
3. 学会等名 専修大学社会科学研究所シンポジウム「アソシエーションの将来：絶望と希望の狭間で」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 社会政策学における独創性：方法的概念の整理と自覚
3. 学会等名 社会政策学会・研究者育成フォーラム第9回定例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 資本主義と自由：その背後の語られざる前提についての理論的・歴史的再考
3. 学会等名 全国憲法研究会2022年度秋季研究会「経済システム・経済的自由と憲法 理論的アプローチ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 経済史からいまを見る：経済の軍事化、「繁栄の中の苦難」、日本の特殊性
3. 学会等名 大阪歴史科学協議会2022年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shinya Yamamoto
2. 発表標題 From hormones to society: comparative studies with chimpanzees, bonobos, dogs and horses
3. 学会等名 Psychology seminar at University of California, San Diego, the US
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Seiji Kumagai
2. 発表標題 Mahamudra Theory and the Four Types of Yoga in Tsangpa Gyare (1161-1211), Founder of the Drukpa Kagyu School
3. 学会等名 19th Congress of the International Association of Buddhist Studies, Seoul: Seoul National University
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kosuke Shimizu
2. 発表標題 A Non-Western Attempt at Hegemony: Lessons from the Second-Generation Kyoto School for Pluriversality and Its Discontents
3. 学会等名 International Studies Association Annual Conference Montreal
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kosuke Shimizu
2. 発表標題 How to Overcome Modernity? Lessons from the Kyoto School
3. 学会等名 Global International Relations: Rethinking the West and East
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Navnita Behera, Chih-yu Shih, Kosuke Shimizu, Andrei Yamamoto, Marcos Sebastian Scauso, Michelle Lee Brown
2. 発表標題 Roundtable 'Comparative Study of Relationality: Relational Theory from All Around the World'
3. 学会等名 International Studies Association Annual Conference Montreal
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kosuke Shimizu
2. 発表標題 The international around the world: multiple voices and alternative orders
3. 学会等名 The 6th Global International Studies Conference (WISC)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 清水耕介
2. 発表標題 ウクライナ紛争の多面性と人権
3. 学会等名 宗門教学会議（西本願寺）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hideaki Nakatani
2. 発表標題 Cultivating tenderness and insights through introspection -What the Buddha taught in his own poetry
3. 学会等名 Research Center for World Buddhist Cultures Colloquium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kosuke Shimizu
2. 発表標題 Politics of language and consciousness]: Kyoto school's failure of postcolonial tactics
3. 学会等名 International Studies Annual Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinya Yamamoto
2. 発表標題 Inability or unwillingness: cognitive or motivational restrictions in our evolutionary closest relatives, chimpanzees and bonobos, in their social and cultural behavior.
3. 学会等名 Leiden Cognitive Psychology Colloquium, Leiden University, Netherland (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊東貴之
2. 発表標題 從欲望的調和到合意與共生理論：以明清思想為中心
3. 学会等名 2021年・第一屆東亞學全國研究生研習營「東亞學的跨域與共生」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久松英二
2. 発表標題 東方キリスト教神秘思想と否定神学 プラトンからパラマスまで;
3. 学会等名 神秘思想における「善悪の彼岸」 否定神学と悪魔論をめぐって
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Eiji Hisamatsu
2. 発表標題 The Jesus Prayer and Yoga - The Early Literature of Hesychasm and the Svetasvatara Upanishad
3. 学会等名 Conference Hesychasm in Context (Oxford) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中谷英明
2. 発表標題 「自省利他」研究の進め方
3. 学会等名 世界の人々のアイデンティティとしての「自省利他」の研究（第2回研究会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中谷英明
2. 発表標題 「自省利他」について
3. 学会等名 世界の人々のアイデンティティとしての「自省利他」の研究（第3回研究会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中谷英明
2. 発表標題 東日本大震災と自省利他
3. 学会等名 龍谷大学東日本大震災追悼法要講演（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kosuke Shimizu
2. 発表標題 'From Geopolitics to Politics of Temporality: Japanese intellectuals' failed attempts for primacy'
3. 学会等名 Davis Forum Workshop 'After American Primacy: From a Transatlantic to an Afro-Eurasian World? University of San Francisco
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kosuke Shimizu
2. 発表標題 'Politics of language and consciousness: Kyoto School ' s failure of postcolonial tactics
3. 学会等名 International Studies Annual Conference (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kosuke Shimizu
2. 発表標題 'International Relations of Relationality and Everydayness: the cases of the Kyoto School philosophers'
3. 学会等名 International Studies Annual Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kosuke Shimizu
2. 発表標題 Buddhism and East Asian
3. 学会等名 National Chung Hsing University-Ryukoku University Joint Seminar (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kosuke Shimizu
2. 発表標題 COVID-19 and Construction of the Self: pandemic in the era of democracy
3. 学会等名 A Webinar of the Department of Political Sciences and the Centre for Japanese Studies, University of Pretoria (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shinya Yamamoto
2. 発表標題 Cooperation and group-mindedness in non-human animals
3. 学会等名 St Andrews Psychology and Neuroscience Seminar, St. Andrews University, Scotland (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinya Yamamoto
2. 発表標題 The evolution of cooperative society: comparative studies with chimpanzees, bonobos and some other non-human animals.
3. 学会等名 Symposium "Evolution Day" organized by Science Club at Bogazci University, Turkey (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本真也
2. 発表標題 類人猿から考える都市～物質文化と社会構造の観点から～
3. 学会等名 東大生産技術研究所「建築史学」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊東貴之
2. 発表標題 從欲望的調和到合意與共生理論：以明清思想爲中心(欲望の調和から、合意と共生の理論へ 明清思想史の文脈から)
3. 学会等名 2021年第一屆東亞學全國研究生研習營「東亞學的跨域與共生」 台灣・中國文化大學東亞人文社會科學研究院(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 2030年の展望と次代への転換：「未来は生きうるか」という問いからいまを考える
3. 学会等名 科学技術振興機構(JST)低炭素社会戦略センター(LCS)対話イベント「いま、あらためて2030年を展望する」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 経済学史と経済史の間：その現実と隔たりと理想的な関係
3. 学会等名 経済学史学会第84回大会共通論題「経済学史の未来：経済の理論と歴史から」(経済学史学会創立70周年記念)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小野塚知二
2. 発表標題 現下の疫病禍(COVID-19)の世界史的位置
3. 学会等名 東京カレッジ連続シンポジウム「コロナ危機を越えて」 価値
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高満也
2. 発表標題 不安を生きる力
3. 学会等名 龍谷大学お逮夜法要(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 新宮一成
2. 発表標題 精神分析の治療原理の探究と臨床精神療法構築
3. 学会等名 日本精神病理学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中谷英明
2. 発表標題 ブッダの「自省利他」
3. 学会等名 龍谷大学創立380周年記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中谷英明
2. 発表標題 自省利他－仏陀の哲学 Introspective Altruism - Philosophy of the Buddha -
3. 学会等名 仏光山大学校長論壇（台湾）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中谷英明
2. 発表標題 インド古典学・チベット古典学と日仏東洋学会
3. 学会等名 日仏東洋学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中谷英明
2. 発表標題 自省利他の思想－『スッタニパータ』八頌品における釈尊の教え
3. 学会等名 駒沢大学成道会法要記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中谷英明
2. 発表標題 東日本大震災と自省利他
3. 学会等名 龍谷大学東日本大震災追悼法要講演（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hideaki Nakatani
2. 発表標題 Cultivating tenderness and insight through introspection -What the Buddha taught in his own poetry
3. 学会等名 Research Center for World Buddhist Cultures Colloquium（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kosuke Shimizu
2. 発表標題 Politics of language and consciousness]: Kyoto school's failure of postcolonial tactics
3. 学会等名 International Studies Annual Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinya Yamamoto
2. 発表標題 Inability or unwillingness: cognitive or motivational restrictions in our evolutionary closest relatives, chimpanzees and bonobos, in their social and cultural behavior.
3. 学会等名 Leiden Cognitive Psychology Colloquium, Leiden University, Netherland (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinya Yamamoto
2. 発表標題 The evolution of cooperative society: comparative studies. with chimpanzees, bonobos and some other non-human animals
3. 学会等名 Symposium "Evolution Day" organized by Science Club at Bogazci University, Turkey (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinya Yamamoto
2. 発表標題 Cooperation and group-mindedness of non-human animals
3. 学会等名 St Andrews Psychology and Neuroscience Seminar, St. Andrews University, Scotland (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊東貴之
2. 発表標題 從欲望的調和到合意與共生理論：以明清思想為中心
3. 学会等名 2021年・第一屆東亞學全國研究生研習營「東亞學的跨域與共生」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久松英二
2. 発表標題 東方キリスト教神秘思想と否定神学 プラトンからパラマスまで;
3. 学会等名 神秘思想における「善悪の彼岸」 否定神学と悪魔論をめぐって
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Eiji Hisamatsu
2. 発表標題 The Jesus Prayer and Yoga - The Early Literature of Hesychasm and the Svetasvatara Upanishad
3. 学会等名 Conference Hesychasm in Context (Oxford) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計50件

1. 著者名 末木文美士	4. 発行年 2023年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 402
3. 書名 近世思想と仏教	

1. 著者名 Seiji Kumagai, Miguel Alvarez Ortega, Francoise Pommaret, Anna Balikci Denjonpa	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Kyoto University Press/Trans Pacific Press.	5. 総ページ数 -
3. 書名 Traditional Neighbors, Different Modernities: Bhutan, Sikkim and the Mon Region	

1. 著者名 伊東貴之、毛立平、張小鋼、牛貫烈主	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中国社会科学出版社	5. 総ページ数 534
3. 書名 風尚，社会与風雅 十八世紀東西方的共時性	

1. 著者名 末木文美士	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 336
3. 書名 禪の中世	

1. 著者名 姜 尚中、青山 亨、伊東 利勝、小松 久男、重松 伸司、妹尾 達彦、成田 龍一、古井 龍介、三浦 徹、村田 雄二郎、李 成市	4. 発行年 2022年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 808
3. 書名 アジア人物史 第7巻 近世の帝国の繁栄とヨーロッパ	

1. 著者名 伊東貴之・何建興・楊徳立	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臺灣・國立中央研究院・中國文哲研究所	5. 総ページ数 288
3. 書名 文化詮釋與諸種傳統之交渉	

1. 著者名 キリスト教文化事典編集委員会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 790
3. 書名 キリスト教文化事典	

1. 著者名 荒川 正晴、大黒 俊二、小川 幸司、木畑 洋一、富谷 至、中野 聡、永原 陽子、林 佳世子、弘末 雅士、 安村 直己、吉澤 誠一郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 主権国家と革命 15～18世紀	

1. 著者名 磯前 順一、タラル・アサド、酒井 直樹、ブラダン・ゴウランガ・チャラン	4. 発行年 2022年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 350
3. 書名 ポストコロナル研究の遺産	

1. 著者名 佐藤 史郎、三牧 聖子、清水 耕介	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 234
3. 書名 E・H・カーを読む	

1. 著者名 末木文美士、山内志朗、中島隆博	4. 発行年 2021年
2. 出版社 未来哲学研究所	5. 総ページ数 260
3. 書名 特集・異なる近代の可能性 非西欧の視座から	

1. 著者名 末木文美士	4. 発行年 2022年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 328
3. 書名 死者と霊性の哲学 ポスト近代を生き抜く仏教と神智学の智慧	

1. 著者名 佐伯 啓思	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 224
3. 書名 死にかた論	

1. 著者名 市川 裕	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 468
3. 書名 ユダヤ的叡智の系譜	

1. 著者名 村井 俊哉	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 208
3. 書名 はじめての精神医学	

1. 著者名 伊東 貴之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 948
3. 書名 東アジアの王権と秩序	

1. 著者名 楊 際開、伊東 貴之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 464
3. 書名 「明治日本と革命中国」の思想史	

1. 著者名 廖欽彬、伊東 貴之、河合 一樹、山村 奨	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 886
3. 書名 東アジアにおける哲学の生成と発展	

1. 著者名 熊谷 誠慈、三宅 伸一郎、小西 賢吾、ダニエル・ベロンスキー、箱寺 孝彦、チューコルツァン・ニマ・オーセル、テンジン・ワンギェル・リンポチェ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 創元社	5. 総ページ数 258
3. 書名 ボン教	

1. 著者名 末木 文美士	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 276
3. 書名 日本思想史	

1. 著者名 末木 文美士	4. 発行年 2021年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 416
3. 書名 増補 仏典をよむ 死からはじまる仏教史	

1. 著者名 佐伯 啓思	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 496
3. 書名 近代の虚妄	

1. 著者名 ジャック=アラン・ミレール、小出 浩之、新宮 一成、鈴木 國文、小川 豊昭	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 258
3. 書名 ジャック・ラカン 精神分析の四基本概念	

1. 著者名 ジャック=アラン・ミレール、小出 浩之、新宮 一成、鈴木 國文、小川 豊昭	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 384
3. 書名 ジャック・ラカン 精神分析の四基本概念	

1. 著者名 市川 裕	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 404
3. 書名 ユダヤ教の精神構造 増補新装版	

1. 著者名 ナシア・ガミー、村井俊哉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 496
3. 書名 現代精神医学原論 新装版	

1. 著者名 高 満也、吉永 進一、碧海 寿広	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 366
3. 書名 日本仏教と西洋世界	

1. 著者名 船山 徹、蓑輪 顕量、熊谷 誠慈、室寺 義仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 256
3. 書名 現代社会の仏教	

1. 著者名 恒木 健太郎、左近 幸村	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 288
3. 書名 歴史学の縁取り方	

1. 著者名 田中雅一、石井美保、山本達也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 456
3. 書名 インド・剥き出しの世界	

1. 著者名 川島 真、池内 恵	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 130
3. 書名 UP plus 新興国から見るアフターコロナの時代	

1. 著者名 末木文美士	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ぶねうま舎	5. 総ページ数 336
3. 書名 冥頭の哲学2 いま日本から興す哲学	

1. 著者名 末木 文美士	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 276
3. 書名 日本思想史	

1. 著者名 末木文美士、山内志朗、中島隆博	4. 発行年 2021年
2. 出版社 未来哲学研究所	5. 総ページ数 260
3. 書名 特集・異なる近代の可能性 非西欧の視座から	

1. 著者名 末木 文美士	4. 発行年 2021年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 416
3. 書名 増補 仏典をよむ 死からはじまる仏教史	

1. 著者名 末木文美士	4. 発行年 2022年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 328
3. 書名 死者と霊性の哲学 ポスト近代を生き抜く仏教と神智学の智慧	

1. 著者名 佐伯 啓思	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 224
3. 書名 死にかた論	

1. 著者名 佐伯 啓思	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 496
3. 書名 近代の虚妄	

1. 著者名 佐伯 啓思	4. 発行年 2020年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 352
3. 書名 経済学の思考法 稀少性の経済から過剰性の経済へ	

1. 著者名 市川 裕	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 468
3. 書名 ユダヤ的叡智の系譜	

1. 著者名 川島 真、池内 恵	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 192
3. 書名 UP plus 新興国から見るアフターコロナの時代	

1. 著者名 入澤 崇	4. 発行年 2019年
2. 出版社 本願寺出版社	5. 総ページ数 148
3. 書名 ジャータカ物語	

1. 著者名 村井 俊哉	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 208
3. 書名 はじめての精神医学	

1. 著者名 高 満也、吉永 進一、碧海 寿広	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 366
3. 書名 日本仏教と西洋世界	

1. 著者名 伊東 貴之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 948
3. 書名 東アジアの王権と秩序	

1. 著者名 楊 際開、伊東 貴之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 464
3. 書名 「明治日本と革命中国」の思想史	

1. 著者名 廖欽彬、伊東 貴之、河合 一樹、山村 奨	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 886
3. 書名 東アジアにおける哲学の生成と発展	

1. 著者名 川島 真、池内 恵	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 192
3. 書名 UP plus 新興国から見るアフターコロナの時代	

1. 著者名 熊谷 誠慈、三宅 伸一郎、小西 賢吾、ダニエル・ベロンスキー、箱寺 孝彦、チューコルツァン・ニマ・オーセル、テンジン・ワンギェル・リンポチェ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 創元社	5. 総ページ数 258
3. 書名 ボン教	

1. 著者名 船山 徹、袁翰 顕量、熊谷 誠慈、室寺 義仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 256
3. 書名 現代社会の仏教	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Home Page: Hideaki Nakatani
<http://www.classics.jp/HN/index.html>
 中谷講演Cultivating Tenderness and Insights,,,
<https://rcwbc.ryukoku.ac.jp/news/news-191/>
 基盤研究(B)「仏典における認識機序記述の研究」2013-2016
<http://www.classics.jp/ninshiki/>
 AA研・人間科学館(Paris) 共同研究「総合人間学」2004-2011
<http://www.classics.jp/GSH/>
 特定領域研究「古典学の再構築」成果取りまとめ 1998-2003
<http://www.classics.jp/RCS/index.html>
 Hideaki Nakatani's Home Page
<http://classics.jp/HN/>
 仏典における認識機序記述の研究
<http://www.classics.jp/ninshiki/>
 総合人間学 Generalized Science of Humanity
<http://www.classics.jp/GSH/>
 古典学の再構築 Reconstitution of Classical Studies
<http://www.classics.jp/RCS/>
 Creation of a Pali Tripitaka Database
<https://kaken.nii.ac.jp/en/grant/KAKENHI-PROJECT-05451007/>
 Hideaki Nakatani
<http://classics.jp/HN/>
 Hideaki Nakatani's Home Page

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	入澤 崇 (Irisawa Takashi) (10223356)	龍谷大学・文学部・教授 (34316)	
研究分担者	末木 文美士 (Sueki Fumihiko) (90114511)	国際日本文化研究センター・研究部・名誉教授 (64302)	
研究分担者	佐伯 啓思 (Saeki Keishi) (10131682)	京都大学・人と社会の未来研究院・特任教授 (14301)	
研究分担者	新宮 一成 (Shingu Kazunari) (20144404)	奈良大学・社会学部・教授 (34603)	
研究分担者	市川 裕 (Ichikawa Hiroshi) (20223084)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・名誉教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村井 俊哉 (Murai Toshiya) (30335286)	京都大学・医学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	小野塚 知二 (Onozuka Tomoji) (40194609)	東京大学・大学院経済学研究科（経済学部）・教授 (12601)	
研究分担者	伊東 貴之 (Ito Takayuki) (20251499)	国際日本文化研究センター・研究部・教授 (64302)	
研究分担者	池内 恵 (Ikeuchi Satoshi) (40390702)	東京大学・先端科学技術研究センター・教授 (12601)	
研究分担者	久松 英二 (Hisamatsu Eiji) (90257642)	龍谷大学・国際学部・教授 (34316)	
研究分担者	清水 耕介 (Shimizu Kosuke) (70310703)	龍谷大学・国際学部・教授 (34316)	
研究分担者	嵩 満也 (Dake Nitsuya) (40280028)	龍谷大学・国際学部・教授 (34316)	
研究分担者	熊谷 誠慈 (Kumagai Seiji) (80614114)	京都大学・人と社会の未来研究院・教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 真也 (Yamamoto Shinya) (40585767)	京都大学・高等研究院・准教授 (14301)	
研究分担者	舟橋 健太 (Funahashi Kenta) (90510488)	龍谷大学・社会学部・准教授 (34316)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	Harvard University			
フランス	Maison des Sciences de l'Homme			
米国	Harvard University			
フランス	Maison des Sciences de l'Homme			
米国	Harvard University			
フランス	Maison des sciences de l'Homme			